

# イチジク



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法									
[9月～11月] 落葉迄 養分蓄積期 収穫後半	9～10月の秋根の動きを強化して、疲労を回復し、上位節果実の肥大・枝の充実・養分蓄積(翌春の生長)を促す	<ul style="list-style-type: none"> <li>●根っ酵素500倍液を葉面散布(収穫中半月ごと)→葉と樹勢の維持 ※状態を見ながら花咲くCa液500倍を交互散布。</li> <li>9月上旬 ●マンゾク・粒状 30～50kg →秋根の伸長・活動促進 ※樹勢が弱ったり、モンパ・線虫等の心配がある場合は必須。 ※特に速効的な樹勢回復には、根っ酵素液3～5ℓを灌水。</li> <li>10月上旬(秋肥) ●硫安10kg(N:2kg) →養分貯蔵の促進 ●畑の大将&lt;青&gt; 10kg →充実・耐寒性が向上</li> </ul>									
[12～1月] 元肥(冬肥) 落葉後、休眠期	<b>地力作り</b> 右記4種の資材を散布して中耕する なるべく深耕を、樹列方向に沿って行う ただし水田に囲まれて水位の高い田の場合は、畦間の耕起・盛土部への培土にとどめる(園全体に施用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラクトバチルス600g →排水・通気よく、安定した土になる</li> <li>●堆厩肥(牛糞など)1トン(なるべく多く)または米ヌカ150kg～</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>肥料(N&amp;Ca)</th> <th>柘井ドーフィン</th> <th>蓬萊柿</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>硫安</td> <td>40kg(N:8kg)</td> <td>60kg(N:12kg)</td> </tr> <tr> <td>畑の大将&lt;青&gt;</td> <td>40kg～60kg</td> <td>60kg～80kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>※状況によって量を加減する</p> <p>※もし複合肥料を使う場合、それぞれチッソ成分を計算して施肥。                      ※堆厩肥・有機物が不十分な場合は硫酸カリ20kgを追加する。                      ※イチジクには栄養素としてのカルシウムがチッソの1.5倍も必要なので、必ず硫安(チッソ)と同量以上のカルシウムを施す事。                      ※好適土壌pHが6.5～7.0と高く、酸性に弱い作物。7.0以上～7.8の弱アルカリ性でも生育するが、根が衰えがちになる。深耕せずに不溶性の石灰を多用すると、表層土は過度の高pHに、下層土は低pHになりやすいので、溶解性の畑の大将&lt;青&gt;を施し、深耕する事が重要。もし高pHになった場合、田畑の大将&lt;赤&gt;で有効なカルシウムを補給する。(なお、pHの調節は他の時期の追肥時にも留意。)</p>	肥料(N&Ca)	柘井ドーフィン	蓬萊柿	硫安	40kg(N:8kg)	60kg(N:12kg)	畑の大将<青>	40kg～60kg	60kg～80kg
肥料(N&Ca)	柘井ドーフィン	蓬萊柿									
硫安	40kg(N:8kg)	60kg(N:12kg)									
畑の大将<青>	40kg～60kg	60kg～80kg									
[3月下旬～6月上旬] 着果始め迄 春の伸長展葉期	秋の貯蔵養分で生長し、下位節果実の素質を決定	3月下旬に根の活動開始の遅れ・萌芽異常の場合は、マンゾク粒状 30kg。N過多・Ca不足、花序分化・枝葉充実が心配なら、畑の大将<青> 20kg。チッソ不足で新葉・枝の発育不良の場合は、硫安20kg。(以上、適宜に)									
[5～6月] 追肥	枝葉を充実・生長させ、下位果実の細胞分裂(前期肥大)を進める	<table border="1"> <thead> <tr> <th>肥料(N&amp;Ca)</th> <th>柘井ドーフィン</th> <th>蓬萊柿</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>硫安</td> <td>30kg(N:6kg)</td> <td>40kg(N:8kg)</td> </tr> <tr> <td>畑の大将&lt;青&gt;</td> <td>30kg～50kg</td> <td>40kg～60kg</td> </tr> </tbody> </table>	肥料(N&Ca)	柘井ドーフィン	蓬萊柿	硫安	30kg(N:6kg)	40kg(N:8kg)	畑の大将<青>	30kg～50kg	40kg～60kg
肥料(N&Ca)	柘井ドーフィン	蓬萊柿									
硫安	30kg(N:6kg)	40kg(N:8kg)									
畑の大将<青>	30kg～50kg	40kg～60kg									
[6月～7月中旬] 枝の伸長停止迄 枝葉充実期	新葉の同化養分で生長、中上位節果実の素質決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●根っ酵素 →葉の生長・6月の根の強化</li> <li>●花咲くCa液 →葉を厚く充実</li> </ul> 500倍を半月ごとに葉面散布 または2ℓ灌水									
[8月中旬] 夏肥	枝葉の維持・果実肥大と成熟を進める	<table border="1"> <thead> <tr> <th>肥料(N&amp;Ca)</th> <th>柘井ドーフィン</th> <th>蓬萊柿</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>硫安</td> <td>20kg(N:4kg)</td> <td>30kg(N:6kg)</td> </tr> <tr> <td>畑の大将&lt;青&gt;</td> <td>20kg～30kg</td> <td>30kg～40kg</td> </tr> </tbody> </table>	肥料(N&Ca)	柘井ドーフィン	蓬萊柿	硫安	20kg(N:4kg)	30kg(N:6kg)	畑の大将<青>	20kg～30kg	30kg～40kg
肥料(N&Ca)	柘井ドーフィン	蓬萊柿									
硫安	20kg(N:4kg)	30kg(N:6kg)									
畑の大将<青>	20kg～30kg	30kg～40kg									
[7月中旬～8月下旬] 肥大期 収穫前半	Caで成熟促進・鮮度保持 ※交互に散布	<ul style="list-style-type: none"> <li>●花咲くCa液500倍を葉面散布(半月ごと)→成熟促進</li> <li>●根っ酵素2ℓを灌水→樹勢維持・肥大促進</li> <li>※エセホン(エチレン)処理後3日間は葉面散布はしない事。</li> </ul>									

※上表の施肥量は成木(柘井ドーフィン:6年以上、蓬萊柿:10年以上)の基準。幼木では0～半量とする。

※土壌病害・木の衰弱への対策=白紋羽病・株枯病・線虫、または樹勢が悪い場合、上記のうち特にラクトバチルス投入。マンゾク粒状、根っ酵素の灌水を励行する。3月下旬以降ないし7～8月に、軽症ならマンゾク・粒状50kgを散布。重症の場合は根を掘り出して根っ酵素100倍液で洗い(1本200ℓ以上)、3日後、ラクトバチルス50gを米ヌカ15kgに混ぜて散布し、覆土する。その後、根っ酵素300倍液を7日間隔2回灌水(灌注)し、あとは上表の基準で根を強化し続ける事。